

## 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス宿泊研修を終えて

教諭 小松 拓史

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（以下SFC）宿泊研修は、1年生対象の総合的な探究の時間「羽後学」の中でおこなったものである。SFCの所在地である藤沢市と羽後町が災害連携協定を結んでいた縁で、今年度、SFCと本校は「羽後学」の中で連携をしてきた。

SFC宿泊研修は、大学生との対話を通して自分自身の魅力を再認識するとともに、大学の授業を通して学校と地域との関わりについて学ぶことを目的としている。今回の研修では主に次のような取り組みをおこなった。

### アイスブレイク活動

SFC到着後におこなった最初の活動が「似顔絵ワークショップ」である。これは、大学生と高校生がペアになり、相手の似顔絵を描きながらお互いを知っていく活動である。生徒は初めて会う大学生とのコミュニケーションに不安を感じているようであったが、大学生の方が積極的に声をかけて活動を引っ張ってくれたこともあり、楽しく取り組んでいた。似顔絵を描くことで、相手の細かいところまで見ようとする姿勢が生まれた。



ワークショップの後半ではSBCについて考えた。SFCには、SBCと呼ばれる滞在型教育研究施設があり、それを自分たちで作りに続けている。今回宿泊させていただいたのもこのSBCである。もしSBCのような施設が羽後町にできるとすれば、どのように使うのが良いかを話し合った。大学生との対話により、具体的な案が示すことができた。

また、2日目にはSBC研究会の大学生とともに、SBCを利用したプロジェクトについて考えを出し合った。

### 食事作り

1日目の夕食、2日目の朝食、3日目の朝食を生徒と大学生が協力して作成した。大学生とのコミュニケーションはもちろん、班内の生徒同士のコミュニケーションも取ることができた。担当する班以外の生徒も食事作りに協力するなど、積極的な姿勢が生まれたのが良かった。

## 班別散策

学内を散策するSFC班、神奈川県内の私立高校である湘南学園高校と交流する湘南学園班、江ノ島を回る江ノ島班に分かれて活動した。SFC班は大学生や教授と、湘南学園班は高校生と、江ノ島班は地域の方々と主に交流を深めた。



### SFC班

- ・ SFCキャンパスツアー  
(メディア棟・鴨池ラウンジ・体育館)
- ・ 小林博人研究会見学 (ベニヤハウスづくり)
- ・ SBC実践中間発表見学

ベニヤハウスづくりを通して建築設計の楽しさを学ぶことができた。大学生の発表を聞くなど、普段は見ることのできない大学の授業も見学した。



### 湘南学園班

- ・ 学校案内
- ・ 湘南学園の説明
- ・ アイスブレイク活動
- ・ 湘南学園高校生のSDGsワークショップ

SDGsを通じて他校生徒と交流を深めることができ、地域や環境の問題に取り組む姿勢に刺激を受けた。



### 江ノ島班

- ・ 3班に分かれての江ノ島ワーク  
決められたテーマをもとに江ノ島を歩き、  
現地の方にオススメスポットを聞いて一緒に  
写真を撮るというミッションに挑んだ。

地域に出ることで、多くの方とコミュニケーションを取ることができた。また、SFC周辺の地域に対して理解を深めることができた。

### ペイントワークショップ

アフリカンペイントアーティストのSHOGENさんとともに、Tシャツに自分の好きな絵を描くペイントワークショップをおこなった。それぞれの思いを6つの色で表現する活動は、生徒一人ひとりの考えを知ることができる良い機会となった。

### 長谷部葉子研究会授業

慶應義塾大学環境情報学部長谷部葉子准教授の授業に参加した。地域と学校、学校と学校の連携について、大学生とのパネルディスカッションや5校の高校生同士のワークショップを通じて考えを深めた。本校以外の、地域との関わりを重視した取り組みをしている他校の生徒と交流したことで、羽後学の活動に活かすことができると感じていたようであった。

〈参加校〉湘南学園高校、郁文館グローバル高校、横須賀高校、屋久島高校（Online）、羽後高校



### スキットワークショップ

スキットとは寸劇のことである。高校生と大学生を混ぜたグループを作り、それぞれ与えられたテーマに沿った寸劇をおこなった。どのグループも必ず一人一役が与えられ、その役割をしっかりと果たそうと全員が必死に取り組んだ。自分の殻を破って表現しようとするこの活動は、生徒にとってもよい経験となった。



## 振り返り

最終日となった3日目の朝に、高校生一人ひとりが宿泊研修の感想を発表した。ペイントワークショップで作成したTシャツのコンセプトも含め、学んだことや感じたことを自分の言葉で話すことができた。



今回の研修は初めての試みであり、日程の調整や活動内容についてはSFCの大学生に難儀をかけてしまった。しかし、さまざまな活動を通して生徒一人ひとりが主体的に取り組み、自分自身と向き合うことができたのは、大きな収穫であった。事後のアンケートでは、「大学生の前で発表をして自信になった」「自主的に行動することができた」と答える一方で、「もっと自分から話しかけることができたと思う」「高校生との交流では積極的に発言できなかった」といった課題も書かれていた。自分の成長だけでなく課題にも目を向けていることから、自分自身を見つめ直すことができたのではないかと思う。今後もSFCとの連携を継続し、生徒の成長の一助にしていければと考えている。